

漱石羊羹

漱石の好んだピーナッツと紅茶。二つの味を漱石の好物だった羊羹に。



数量限定

販売価格: 1,450円

販売場所: 三越、藤崎、エスバル、仙台駅おみやげ処1号2号店、一部直営店(駅前店・一番町店・中央店・晩翠通店・大学病院前店)

紅茶

ピーナッツ
落花生

「鬼と豆大福」

1函3個入
540円



期間限定

販売期間/2月3日(金)まで

※表示価格は消費税込みです。直営店にてご用命をお待ち申し上げます。

漱石生誕150年

仙台と夏目漱石

漱石の蔵書のほとんどは
東北大図書館にある

戦火が激しくなった昭和19年、明治の文豪夏目漱石(1867~1916)の貴重な蔵書や日記、手帳など約3,000点が、東京の「漱石山房」から仙台の東北大学に移されました。これらの資料は「漱石文庫」と名付けられ、漱石研究に役立てられています。生誕150年の今年、東北大学附属図書館と白松がモナカ本舗ではこれを記念し漱石に関わるコラムを連載します。

正月に、猫が餅を食べて大騒動の巻

漱石センセイを巡る物語 —その①—

『漱石、正月に正月の食を描く』

夏目漱石の出世作となった『吾輩は猫である』が世に登場したのは、雑誌「ホトギス」の明治38(1905)年1月号でした。あまりにも有名な「吾輩は猫である。名前はまだ無い」の書き出しで始まるこの小説は、112年前のお正月に読まれていたのです。

初回が好評だったせいか、翌2月号にはのちに単行本の第2章となる「続編」が掲載されました。この第2章ではまさに、正月の夏目家の様子が描かれているのです。第2章の冒頭は、「吾輩は新年来多少有名になったので、猫ながらちょっと鼻が高く感ぜらるるのありがたい」とはじまります。そして、その有名になった証として、主人のもとにネコを描いた年始状が続々と届けられたことが述べられます。干支にネコはいないので、正月にネコを描いた年賀状が届けられることは、普通はないと思います。この年は特別で、初回の公表により「今まで世間から存在を認められなかった主人が急に一個の新面目を施した」と漱石自身も書きたくなるほど、この小説が注目されたのでしょう。

さてこの第2章では、主人公の吾輩が正月の夏目家で大活躍します。主人が、訪ねてきた寒月君と外に出て行ったあと、吾輩は寒月君の食べ残したカマボコちょっと失敬します。それだけだったらよかったのですが、翌日は主人の残したお雑煮に目を付けます。今まで一度も口に入れたことがないお餅に、吾輩は「やめようかな」

『吾輩は猫である。下編』初版(明治40年)の表紙(右の写真)とさし絵(下の写真)



夏目漱石
【慶応3年(1867)
~大正5年(1916)】

代表作
「ころ」「坊っちゃん」
「三四郎」「草枕」「虞美人草」
「吾輩は猫である」

とためらいつつ、魅入られるようにして、ついに餅に食いついてしまいます。ところがそれからが大変で、かみ切ろうとしても切れず、歯をぬこうとしてもぬけず、前足で取ろうとしても取れず、家じゅう大騒ぎとなります。実はこのエピソード、その年の正月の夏目家で実際におきたことであつたと、漱石の鏡子夫人がのちに語っています。お雑煮の餅をネコが食べて、しきりに前足でもがきながら踊るをおどっていたというのです。家じゅうが笑いにみちたこの光景をはたに見ながら、漱石はペンをとったのでしょう。

『吾輩は猫である』に描かれた正月の風景には、とても暖かいものを感じます。この数年後、一人の若者が正月の夏目家に入り浸っていました。1月1日から4日までの毎日「先生のうちにいる」とだけ日記に書いていたこの青年の名は、小宮豊隆。のちに東北帝国大学教授となり、漱石の旧蔵書を大学図書館に譲り受け、「漱石文庫」として仙台の地に残した、その人でした。よほど正月の夏目家の居心地がよかったのだと、思わずにはいられませんね。【文・米澤誠(東北大学附属図書館)】

※東北大学附属図書館



【漱石文庫】昭和19年(1944~)

東北大学の漱石文庫は、夏目漱石が自宅に所蔵していた3,000冊の図書および日記、ノート、試験問題、原稿などの自筆資料からなるコレクションです。英文学関係の図書が中心で、漱石による多くの書入れがあります。漱石は骨董趣味などなく、自分が読むための本を集めたといわれており、そのほとんどが実際に漱石が手に取り読んだ本、読もうとした本である点がこのコレクションの特徴です。漱石文庫が東北大学に移されたのは、東北大学附属図書館の第5代館長で、漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆の尽力によります。漱石の自宅である漱石山房があつた早稲田南町は、昭和20年3月10日の東京大空襲で焼失しましたので、それ以前に仙台に移されたことで、漱石の愛蔵書を現代に継承することができたのです。

白松

白松がモナカ

白松がヨーカン



本社 仙台市青葉区大町二丁目8番23号 ☎022(222)8940代
☎0120-008-940
http://www.monaka.jp/